

2024年3月期 第2四半期
決算説明資料



松田産業株式会社
2023年11月21日



1. 2024年3月期 第2四半期決算の概要

1-1 連結業績

1-2 連結貸借対照表

1-3 連結キャッシュ・フロー計算書

1-4 通期の連結業績見通し

(東証の要請に対する当社対応の方針)

2. セグメント別の業績概要と見通し

2-1 貴金属関連事業 (業績概要、品目別売上高の推移)

2-2 食品関連事業 (業績概要、品目別売上高の推移)

2-3 営業利益の増減

2-4 業績見通し

3. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

3-1 現状認識

3-2 PBR改善に向けた方針と取組み

3-3 資本政策/キャッシュアロケーション

3-4 株主還元

(Appendix)



1. 2024年3月期 第2四半期決算の概要

売上高は、食品関連事業の貢献もあり前年同期比で増加も、
電子デバイス分野の操業低下の影響などで、営業利益は減益に

(億円)

	23/3期上期	24/3期上期	前年同期比 増減	
売上高	1,760	1,787	+27	+1.6%
営業利益	79	50	▲28	▲36.1%
営業利益率	4.5%	2.8%	▲1.7pt	-
経常利益	81	58	▲22	▲27.7%
当期純利益	56	40	▲15	▲27.9%

1-2 連結貸借対照表

【資産の部】		(億円)		
	23年3月末	23年9月末	増減	主な増減要因
流動資産	893	970	+77	(+) 受取手形・売掛金及び棚卸資産の増加
固定資産	398	437	+38	(+) 建物（北九州、入間、タイ）、機械設備の新設
資産合計	1,292	1,407	+115	
【負債の部】				
	23年3月末	23年9月末	増減	主な増減要因
流動負債	278	365	+86	(+) 買掛金及び短期借入金の増加
固定負債	166	151	▲14	(-) 長期借入金の返済
うち有利子負債	192	249	+57	
負債合計	445	517	+71	
【純資産の部】				
	23年3月末	23年9月末	増減	主な増減要因
純資産合計	846	890	+44	(+) 利益剰余金の増加
負債純資産合計	1,292	1,407	+115	
自己資本比率	65.4%	63.1%		

1-3 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	23/3期上期	24/3期上期	当期の主な増減要因
営業キャッシュ・フロー	▲37	▲20	(+) 税金等調整前四半期純利益、仕入債務の増加 (-) 売上債権及び棚卸資産の増加、法人税等の支払い
投資キャッシュ・フロー	▲94	▲43	(-) 有形固定資産の取得による支出
フリー・キャッシュ・フロー	▲132	▲63	
財務キャッシュ・フロー	123	46	(+) 短期借入金の増加
現金及び現金同等物の増減	▲1	▲11	
現金及び現金同等物の期末残高	112	106	

1-4 通期の連結業績見通し

24/3期通期の業績予想について、5/12公表値から下記の通り上方修正

	23年3月期 実績	当初予想 (5/12公表)	修正予想 (11/10公表)	(億円)	
				対当初予想	対前期実績
売上高	3,510	3,300	3,600	+300	+2.6%
営業利益	138	90	100	+10	▲27.6%
営業利益率	3.9%	2.7%	2.8%	+0.1pt	-
経常利益	138	93	110	+17	▲20.5%
当期純利益	96	65	76	+11	▲21.6%
1株当たり当期純利益 (円)	371.7	249.1	291.4	+42.2	▲21.6%
ROE	12.2%	7.3%	8.3%	+1.0pt	-



(東証の要請に対する当社対応の方針)

現状認識

ROEと株主資本コストについては、エクイティ・スプレッドが拡大しているものの、PBRは1倍割れの状況が継続し、また、資本収益性は低下傾向にある。

方針

PBR改善に繋がる資本収益性の向上に向けて、中期経営計画の着実な推進で経営目標の達成を目指すとともに、「資本効率の向上」と「成長期待の醸成」を重要課題として、施策の実行に取り組む。

(重要課題と施策)

資本効率 の向上

ROIC経営の推進

ROICを指標とした経営管理を今後導入し、各事業の資本効率向上を目指す

資本政策の的確な実行

財務健全性の確保を考慮しつつ、将来の資本収益性向上に繋がる事業投資と、株主還元の更なる充実に向けた政策を実行する

成長期待 の醸成

IR活動の強化

投資家・株主に向けて、持続的成長のシナリオや競争優位性、サステナビリティ課題への取り組みなどを分かりやすく伝え、対話し、意見を経営に活かす



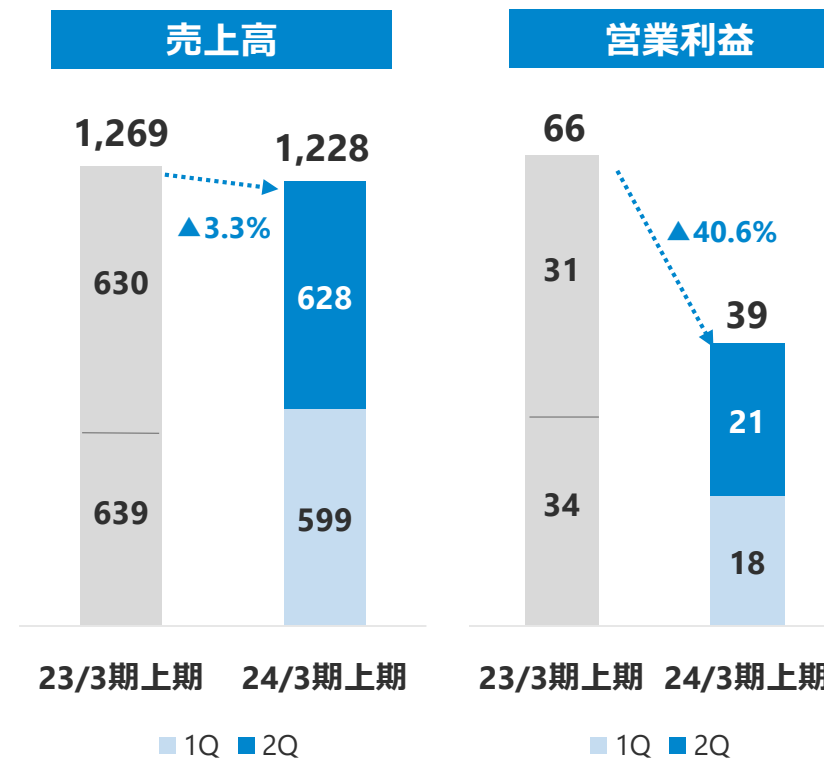
2. セグメント別の業績概要と見通し

2-1 貴金属関連事業（業績概要）

宝飾分野での貴金属リサイクル取扱量の増加、金相場の堅調な推移はあったものの、主力顧客の電子デバイス分野は操業が低迷し、貴金属リサイクル取扱量及び製商品の販売量が減少

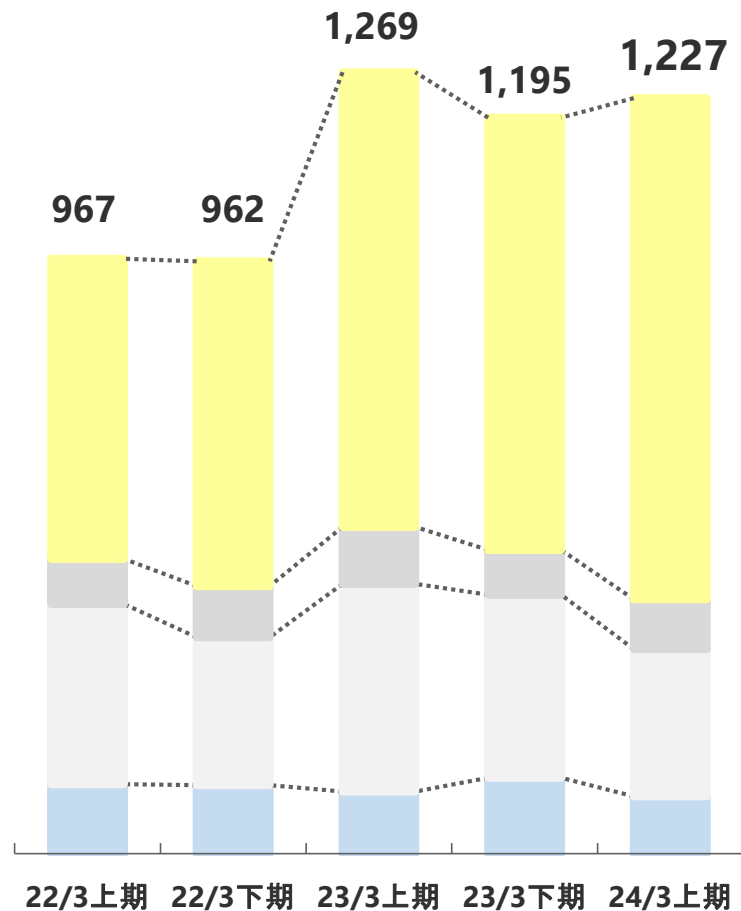
(億円)

	23/3期上期	24/3期上期	増減	
売上高	1,269	1,228	▲41	▲3.3%
営業利益	66	39	▲26	▲40.6%
営業利益率	5.2%	3.2%	▲2.0pt	-



2-1 貴金属関連事業（品目別売上高の推移）

金価格の上昇や宝飾分野からの貴金属リサイクル量増加で、金は前年同期比+74億円となるが、電子デバイス分野の貴金属リサイクル量及び製商品の販売量が減少し、全体の売上高は前期同期比▲41億円

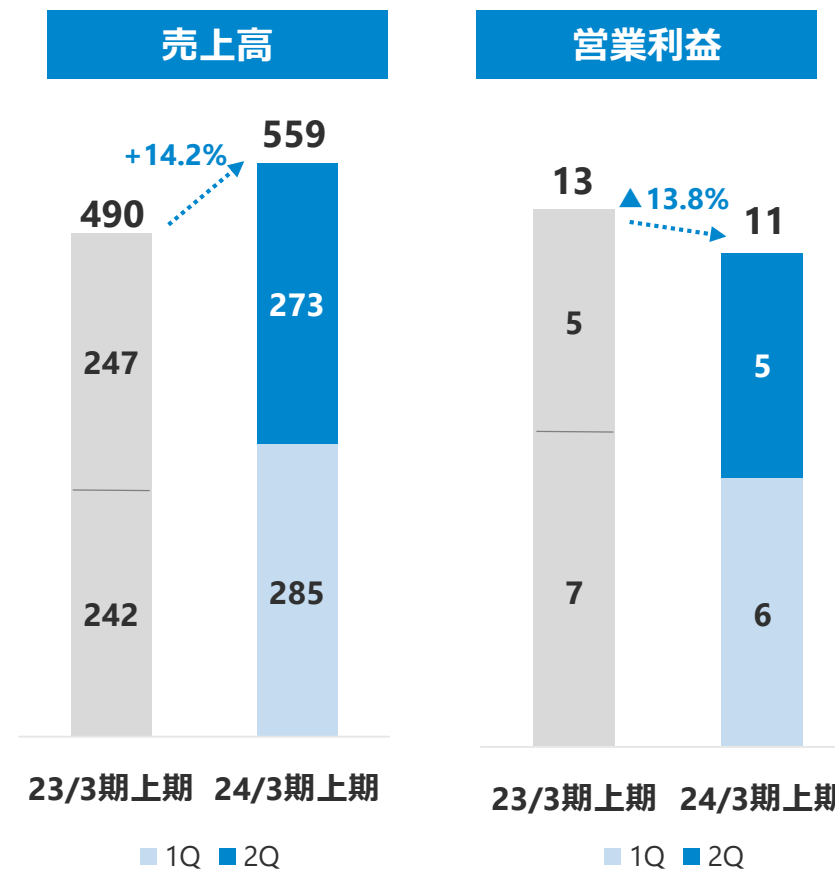


	(億円)			増減要因
	24/3上期	前年同期比増減		
金	813	+74	+10.1%	数量減少 ▲2.1%、価格上昇 +12.2%
銀	81	▲10	▲11.9%	数量減少 ▲24.2%、価格上昇 +12.3%
白金族	239	▲97	▲28.9%	数量減少 ▲17.1%、価格下落 ▲11.9%
その他	93	▲7	▲7.6%	非鉄金属製品▲11.0% 等

2-2 食品関連事業（業績概要）

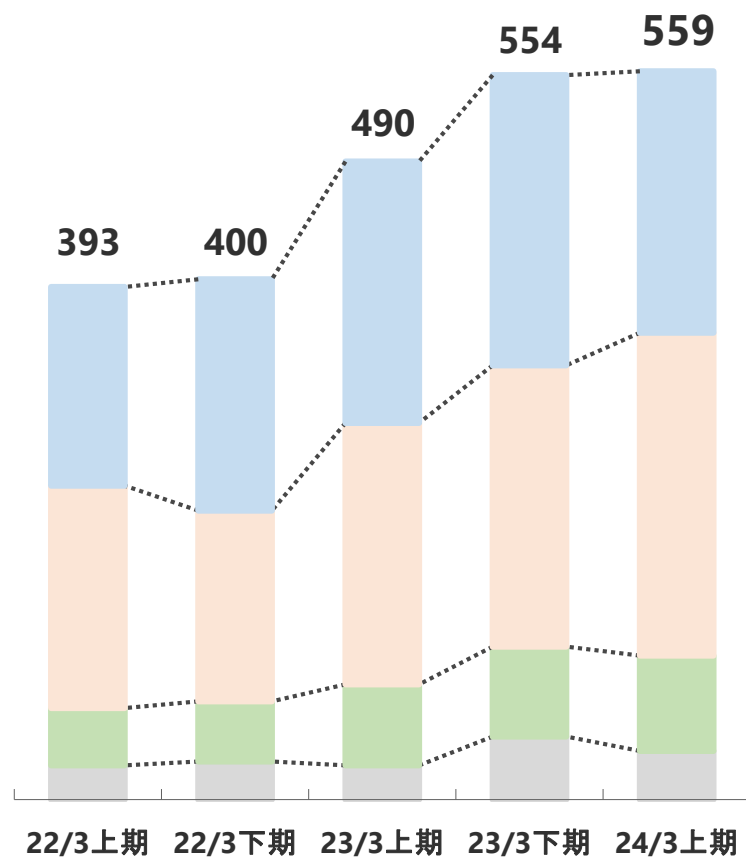
販売量の増加、販売価格の上昇により、売上高は前年同期比で増加したものの、
 運送費及び保管料の増加や、仕入価格上昇の影響により、営業利益は前年同期比で僅かに減少

	23/3期上期	24/3期上期	増減	
				(億円)
売上高	490	559	+69	+14.2%
営業利益	13	11	▲1	▲13.8%
営業利益率	2.7%	2.1%	▲0.6pt	-



2-2 食品関連事業（品目別売上高の推移）

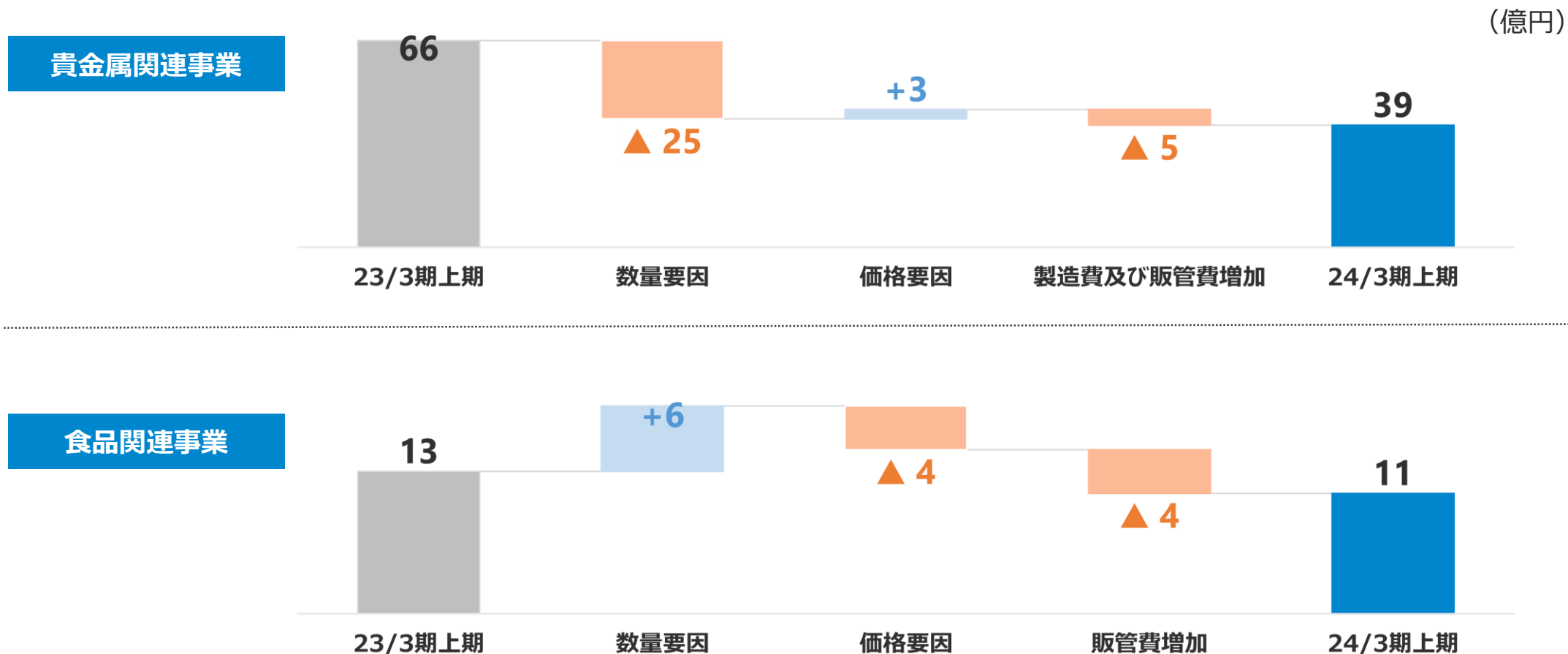
水産品の苦戦をカバーした、畜産品・農産品などの販売量増加と、
全体的な価格の上昇により、売上高は前年同期比+69億円



	(億円)			
	24/3上期	前年同期比増減		増減要因
水産品	200	+0	+0.2%	数量減少 ▲6.1%、価格上昇 +6.1%
畜産品	247	+47	+23.6%	数量増加 +4.4%、価格上昇 +19.2%
農産品	73	+11	+17.9%	数量増加 +5.2%、価格上昇 +12.7%
その他	37	+10	+40.4%	数量増加 +49.1%、価格下落 ▲8.7%

2-3 営業利益の増減

貴金属関連事業は、電子デバイス分野の操業低下を受けた数量減少がひびく
食品関連事業は、販売量の増加が利益貢献したものの、仕入価格上昇や販管費増加を吸収できず



2-4 業績見通し

セグメント別の業績予想について、貴金属関連事業、食品関連事業ともに上方修正

(億円)

	23年3月期 実績	当初予想 (5/12公表)	修正予想 (11/10公表)	対当初予想	対前期実績
貴金属 関連事業	売上高	2,465	2,300	+200	+1.4%
	営業利益	120	71	+7	▲35.2%
食品 関連事業	売上高	1,044	1,000	+100	+5.3%
	営業利益	17	19	+3	+24.0%
合計	売上高	3,510	3,300	+300	+2.6%
	営業利益	138	90	+10	▲27.6%

2-4 業績見通し（予想前提の変化点）

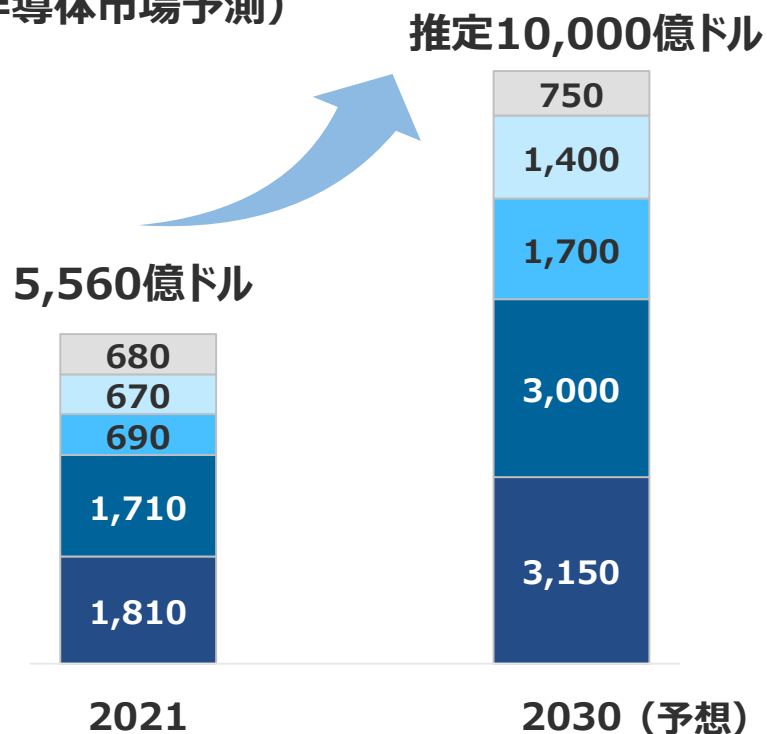
貴金属関連事業では宝飾業界からの貴金属回収量の増加や金価格の上昇のため、
食品関連事業は販売価格の想定を超える上昇のため、当初予想から業績上振れ

	5月時点の業績予想前提	現状認識/前提の変更	
貴金属 関連事業	外部環境と 数量	<ul style="list-style-type: none"> 自動車を除く需要の減少と過剰在庫の調整に伴い、電子デバイス分野は操業低下し、回復は下期以降の見立て ➔ 貴金属リサイクル取扱量、製商品販売数量の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 電子デバイス分野の回復は、来年度以降の見立て 宝飾業界からの貴金属回収量の増加
	販売価格	<ul style="list-style-type: none"> 貴金属相場：23年3月期の下期平均並みに想定（金：8,000円/g、銀：95円/g） 	<ul style="list-style-type: none"> 金価格の想定を超える上昇 貴金属相場：24年3月期の上期平均並みに想定（金：8,700円/g、銀：106円/g）
食品 関連事業	外部環境と 数量	<ul style="list-style-type: none"> インバウンド需要の拡大などで外部環境は回復顧客ニーズの多様化に備えた調達力を強化 ➔ 水産品、農産品を中心に販売数量は増加 	<ul style="list-style-type: none"> 販売数量は畜産品と農産品が増加、水産品は減少
	販売価格	<ul style="list-style-type: none"> 23年3月期の上期平均価格程度まで下落を想定 	<ul style="list-style-type: none"> 販売価格は想定より上昇も、価格上昇に一服感があり、緩やかに下落へ

（補足：貴金属関連事業の外部環境に関する認識）

足元では操業低下が続く電子デバイス分野は、IoT化やEV自動車への転換等から中長期的に拡大
希少な鉱物資源の確保に向けて、資源リサイクルの需要が今後さらに拡大することが予想される

（世界の半導体市場予測）



色区分	対象
（grey）	家電向け
（light blue）	産業エレクトロニクス向け
（medium blue）	自動車・電動車向け
（dark blue）	通信向け
（darkest blue）	データ技術向け

出典：ドイツ電気・電子工業連盟（ZVEI）のデータを元に当社が作成

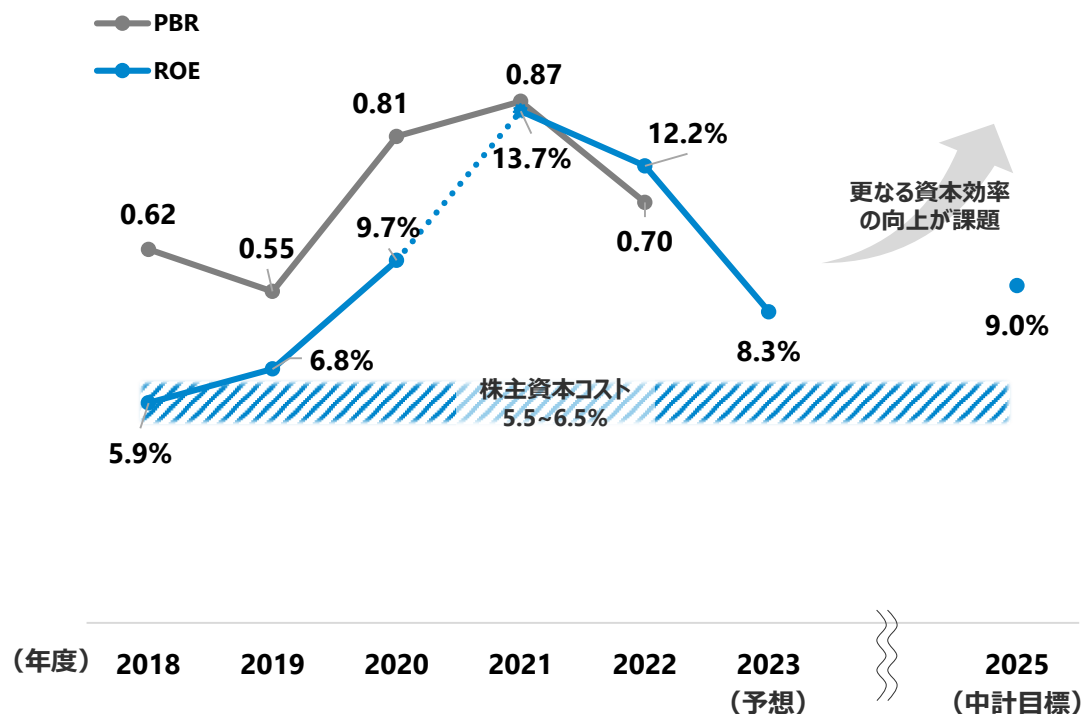


3. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

3-1 現状認識

株主資本コストを上回るROEを達成しているものの、PBRは0.7倍程度にとどまり、
足元では、資本収益性が低下傾向にある

PBR・ROE・株主資本コストの推移



- 2022年度では、4期連続の増収増益を達成するなど、好調な業績に伴いROEは12.2%となり、当社の株主資本コスト（5.5~6.5%で推移）を大きく上回る水準に
- エクイティ・スプレッドが拡大する中で、PBRは0.7倍程度にとどまり、2021年度を境に、ROEが低下傾向にある
- PBRの1倍割れは、次の要因にあると分析
 - ・ ROEが低下傾向の中で、さらに2023年度の業績/ROE低下予想
 - ・ 持続的成長に対する不透明感による成長期待の低下
 - ・ 株主還元への評価
- PBRの改善に向けた課題は、資本収益性の低下を抑え改善に繋げるための「資本効率の向上」と、投資家及び株主への「成長期待の醸成」と認識する

3-2 PBR改善に向けた方針と取り組み

方針

PBR改善に繋がる資本収益性の向上に向けて、中期経営計画の着実な推進で経営目標の達成を目指すとともに、「資本効率の向上」と「成長期待の醸成」を重要課題として、施策の実行に取り組む。

中期経営計画（2022～2025年度）

（2025年度目標）

売上高
3,000億円

営業利益
130億円

営業利益率
4.3%

ROE
9.0%

ROA
10.0%

<基本方針>

貴金属関連事業 & 食品関連事業の両事業を成長の牽引役とし…

- 積極投資の継続で収益基盤強化と新規収益源の創出
- 持続的成長を支え、加速させる経営基盤の強化
- ESG経営の推進で企業価値向上

貴金属関連事業

資源循環(活用)を創造する
リーディングカンパニー

食品関連事業

お客様の商品開発の
ベストパートナー

経営基盤強化

（重要課題と施策）

資本効率 の向上

ROIC経営の推進

ROICを指標とした経営管理を今後導入し、各事業の資本効率向上を目指す

資本政策の的確な実行

財務健全性の確保を考慮しつつ、将来の資本収益性向上に繋がる事業投資と、株主還元の充実にに向けた政策を実行する

成長期待 の醸成

IR活動の強化

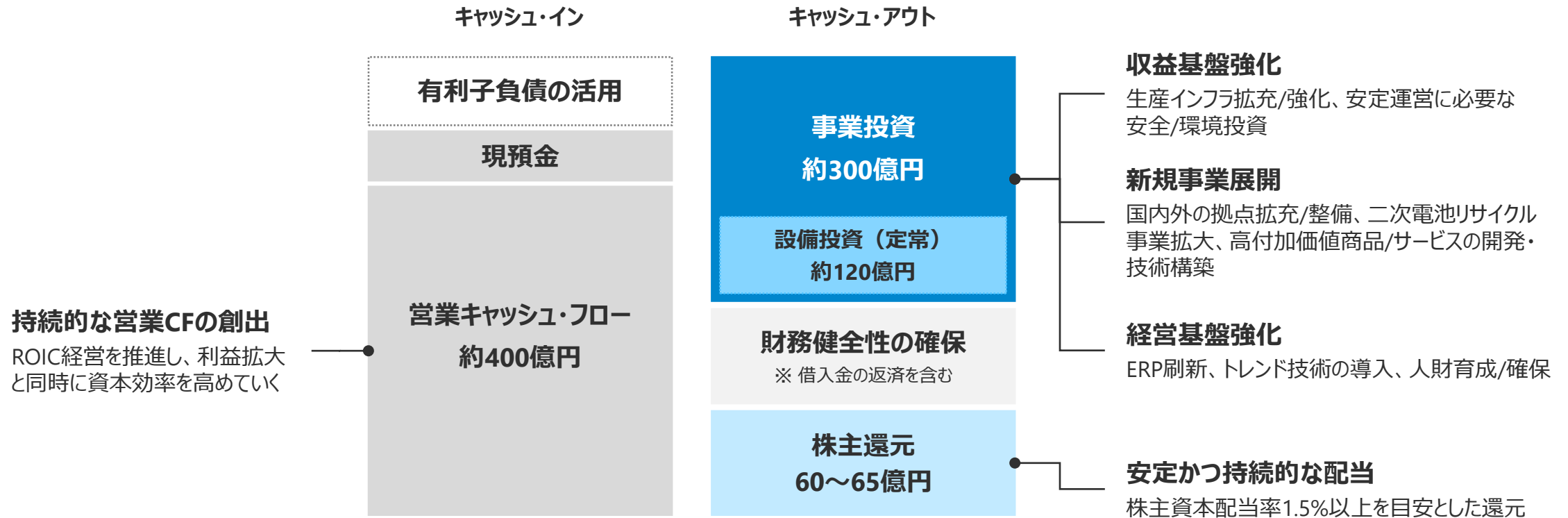
投資家・株主に向けて、持続的成長のシナリオや競争優位性、サステナビリティ課題への取り組みなどを分かりやすく伝え、対話し、意見を経営に活かす

3-3 資本政策/キャッシュ・アロケーション

資本政策 (基本方針)

成長性を捉えた事業機会への最適資源配分、財務健全性の確保、株主還元のバランスを考慮し、持続的に企業価値を向上させる

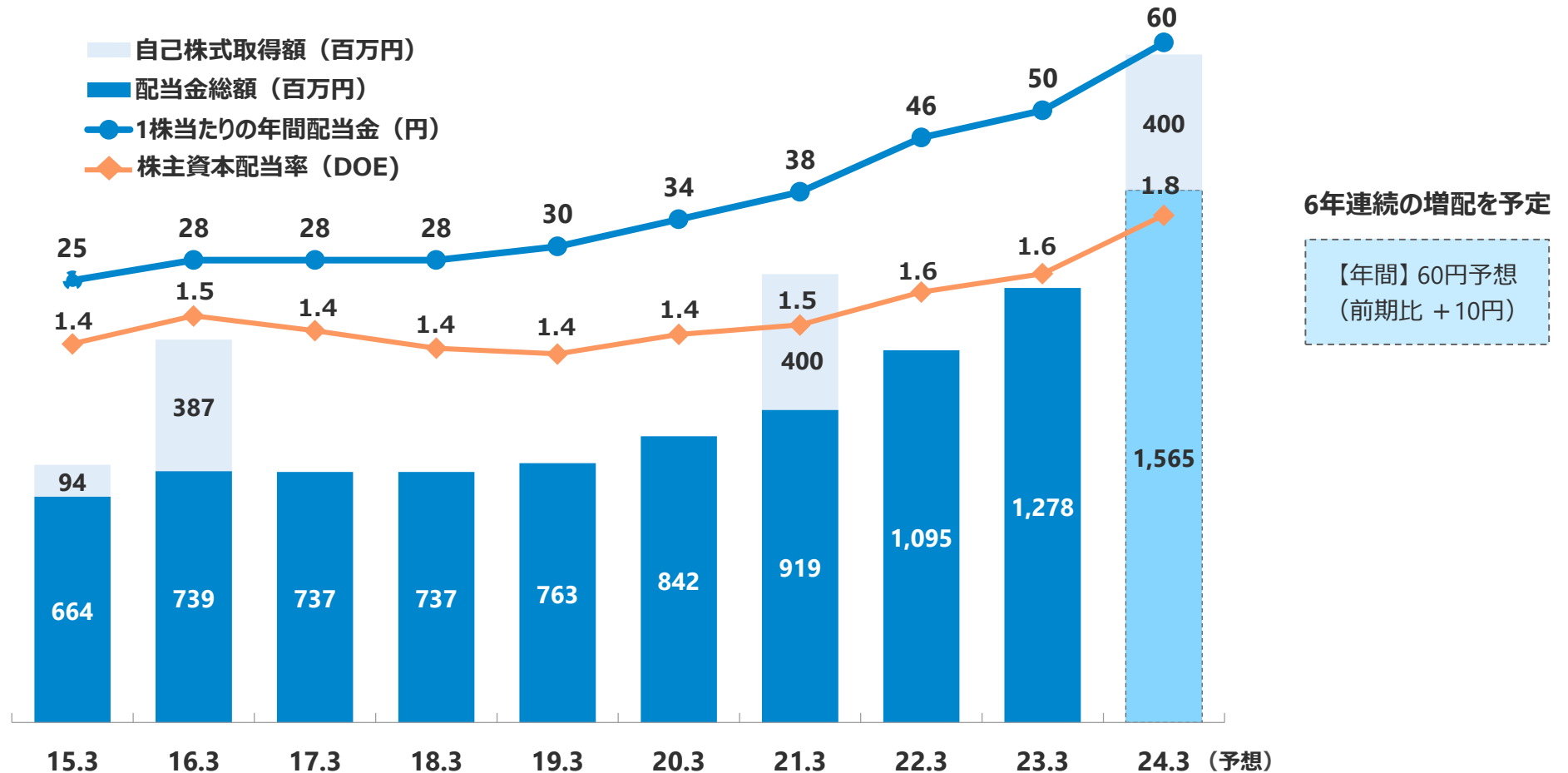
<中期経営計画（2022～2025年度累計）に基づく、キャッシュ・アロケーションの想定>



3-4 株主還元

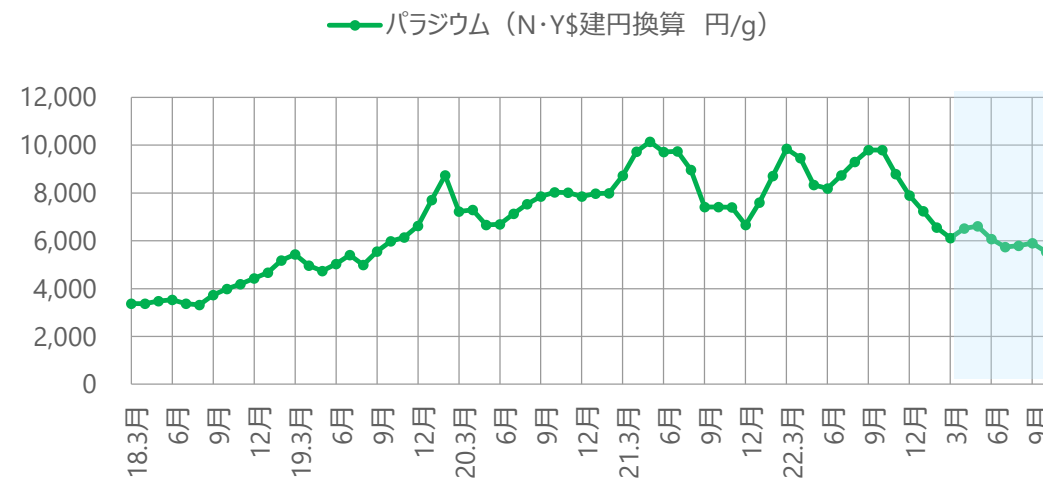
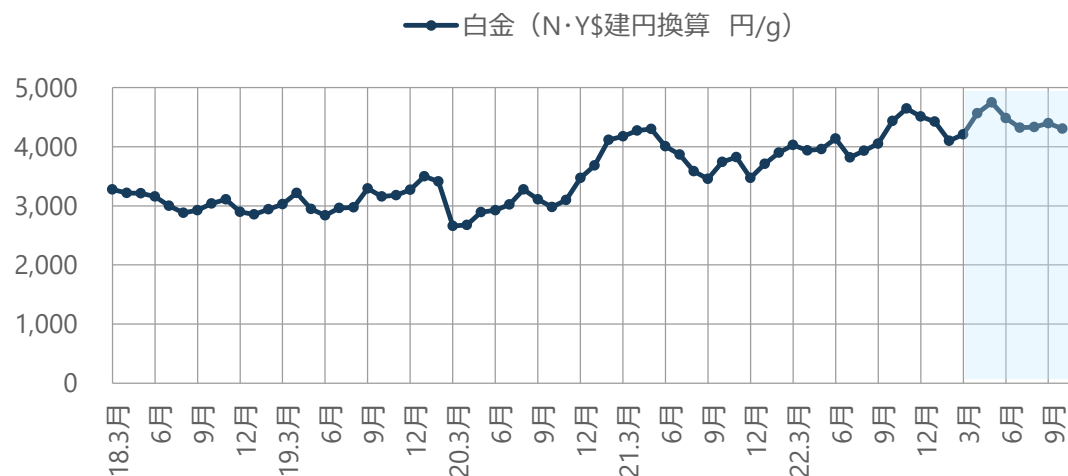
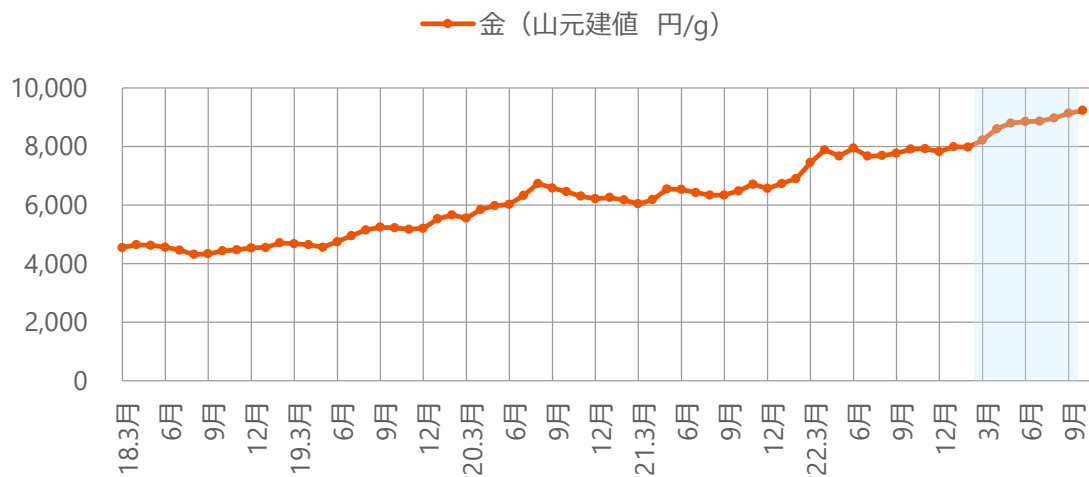
株主還元 (方針)

- 成長投資の為の内部留保とのバランスを考慮しつつ、安定且つ持続的な配当を実施
- 株主資本配当率1.5%以上を目安とした還元
- 市場環境を勘案した機動的な自己株式取得



Appendix

- 24年3月期は、金 8,700円/g、銀 106円/gを想定





本資料は弊社についてご理解を深めていただくことを目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の掲載内容は、現在までにプレスリリース等を行った各種資料に基づいて作成しておりますが、掲載内容の正確性、完全性、相当性、その他一切について何ら責任を負うものではありません。

また、掲載されている文章・グラフなどの欠落・誤謬などにつきましては、その責任を負いかねますのでご了承ください。

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであります。将来の業績は、経営環境の変化等に伴い、目標と異なる可能性があることにご留意ください。

<お問い合わせ先>

松田産業株式会社
CSR・IR部

お問い合わせフォーム : <https://www.matsuda-sangyo.co.jp/ja/contact/contact4.html>



松田産業株式会社

MATSUDA SANGYO CO., LTD.